

# オオエンコウガニ 南東大西洋

Deepsea Red Crab *Chaceon erytheiae*



SEAFO Stock Status Report

## 管理・関係機関

南東大西洋漁業機関 (SEAFO)

## 生物学的特性

- 最大体長（甲長）：雄 13.2 cm・雌 11.5 cm、最大体重：雄 780 g・雌 420 g
- 寿命：15 歳前後
- 性成熟年齢：不明
- 産卵期・産卵場：産卵期（不明）・産卵場（Valdivia Bank）
- 索餌期・索餌場：索餌期（不明）・索餌場（Valdivia Bank）
- 食性：死骸も餌とする雑食性
- 捕食者：オレンジラフィー等大型魚類

## 利用・用途

本種は、主に缶詰、ほぐし身として利用される。

## 漁業の特徴

SEAFO における本種の漁場は B1 海域内 Valdivia Bank の限られた場所で、主に日本とナミビアがかにかご船で操業を行ってきている。

## 漁獲の動向

SEAFO 設立（2003 年）以降 2020 年までに操業があったのは、2016 年と 2018 年を除く 16 年間であった。漁獲量は、5~808 トンの間で変動し平均 70 トンであった。2007 年に最大漁獲量 808 トンを記録した。漁獲量は前半（2003~2010 年）日本が最も多く（平均 308 トン）、後半（2011~2020 年）はナミビアが最も多かった（平均 147 トン）。

## 資源状態

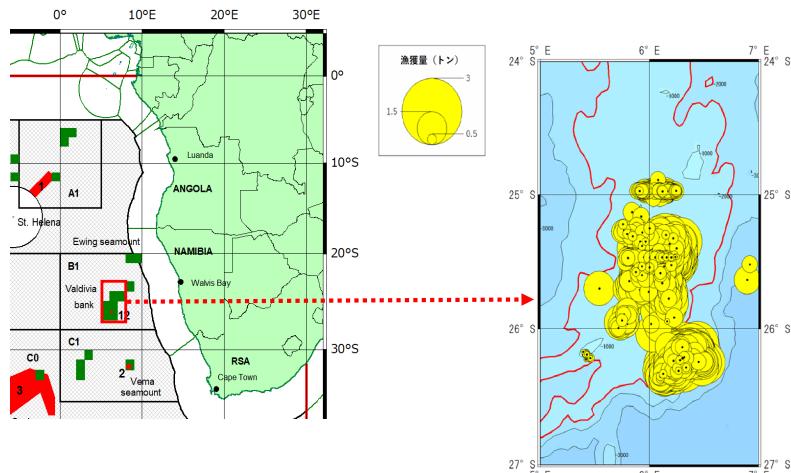
資源豊度指数（標準化した単位努力量当たりの漁獲量（CPUE））によると、2013 年まで豊度指数は年々増加したが、それ以降は 2015 年を除き減少している。2005 年から 2007 年に平均 501 トンの高漁獲があり、その後も総漁獲可能量（TAC）に近い漁獲量（200 トン）が 6 年間継続した。おそらく高漁獲の影響で加入量が急減し、そのコホート（同世代群）が寿命 15 年のオオエンコウガニ資源量に悪化をもたらし、2017~2018 年に豊度指数が急減したものと考えられる。2021 年はピーク時（2013 年）の 10%まで落ち込んでおり、科学委員会は懸念している。資源水準は資源評価が実施されていないため不明、資源動向は最近の CPUE が減少傾向にあるため減少と、それぞれ判断した。

## 管理方策

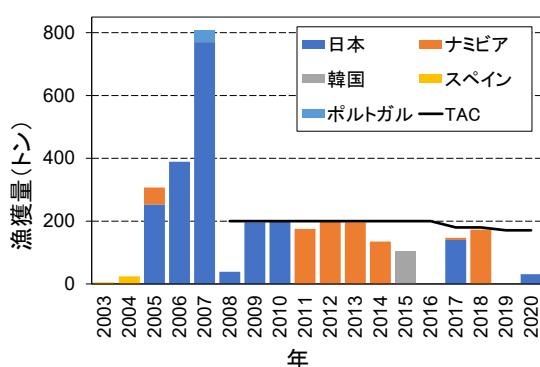
管理措置決議 CM30-15 では、底魚漁業、禁漁海域、脆弱な海洋生態系（VME）を含む深海生態保全、科学オブザーバー乗船義務、開発漁業等の規則が定められている。TAC 設定規則では、科学委員会で合意された資源評価結果が無い場合漁獲管理ルール（HCR）で TAC（2 年毎）を決定することが合意されている。HCR は、最近 5 年間の CPUE の平均的傾きに基づくものである。合意された資源評価が現在までないため HCR で TAC が決定されている。最新の TAC（2022~2023 年）は、B1 海域で 162 トン（他の海域では HCR を使用せず以前と同じ 200 トン）。その他の管理方策には、CM04-06（サメ類保全）、CM14-09（海亀類保全）等がある。

## オオエンコウガニ（南東大西洋 SEAFO 条約海域）の資源の現況（要約表）

資源水準	不明
資源動向	減少
総漁獲量 (最近5年間)	0~173トン 最近(2020)年:31トン 平均:70トン(2016~2020年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0~140トン 最近(2020)年:31トン 平均:34トン(2016~2020年)
管理目標	HCRに基づくTAC(2022~2023年) (B1海域:162トン、その他の海域200トン)
資源評価の方法	-
資源の状態	不明
管理措置	CM30-15(底魚漁業、禁漁海域、VMEを含む深海生態保全、開発漁業等の規則)。CM-TAC-01-2021(B1海域における2022~2023年TAC:162トン、その他の海域200トン)。CM04-06(サメ類保全措置)。CM14-09(海亀類保全措置)等。
最新の資源評価年	2014年(結果の合意なし)
次回の資源評価年	未定

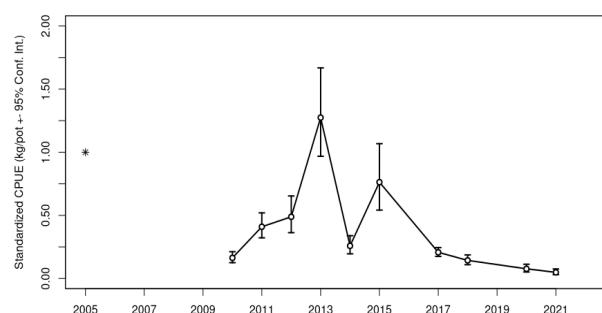


オオエンコウガニ主漁場（SEAFO B1 海域 Valdivia Bank）における漁獲量分布図



SEAFO 海域におけるオオエンコウガニの国別漁獲量・TAC の推移 (2003~2020年)

(注) 2020年の漁獲量は8月末現在の値



SEAFO B1 海域 Valdivia Bank におけるオオエンコウガニ資源豊度指数 (標準化 CPUE) の推移 (2005~2021年)